

令和7年度 小林市立東方小学校 自己評価書

4段階評価（4：期待以上	3：ほぼ期待どおり	2：やや期待を下回る	1：改善を要する）
--------------	-----------	------------	-----------

学校経営 ビジョン	「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。 【子どものつよさや可能性を最大限に引き出し、鍛え、伸ばす教育活動の創造】
--------------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	
				取組別	総合		
知育	学力の向上	1 ICTの効果的な活用と情報モラルの育成 ・教育効果の高まる指導法の工夫（日常的なタブレットの活用、デジタルドリルの活用など） ・メディアコントロール	タブレットPC 各学年週8時間以上授業での使用	(1) 普段の生活の中や授業の際にタブレット内のソフト（ロイノート等）を使って、作成し、展開していく。 (2) AI型ドリル（スマイルネクスト）やAIドリルを予習復習の教材として、学校や家庭で取りませる。 (3) 授業の際に、必ずメディアの安全な使い方についてふれるようにする。	3.6	3.5	<p>全学年において、授業の中で児童や先生方が日常的にタブレットを活用しており、週8時間以上の使用は達成している。タブレット内のソフトについては、AI型ドリルやAIドリルが導入されており、児童が復習や補充学習・発展学習のために積極的に活用する姿が見られた。また、ロイノートの導入により、先生と児童のやり取りが頻繁にできるようになって授業も活性化している。高学年ではメディアコントロールについて講師をお呼びし、何回も学ぶ機会を作れた。さらに、長期休業中には、タブレットの持ち帰りを行い、家庭でも活用する環境を少しずつ整えることができた。</p> <p>本校の主題研究の中で、NRTテスト、全国学力・学習調査、みやざき学力テストの分析を各学年で行い、本校児童が弱いとされる学習内容について知り、タブレット等を活用して何度も繰り返し問題に取り組みせることで学力向上を図った。学級では、TVやPCを使って視覚化による理解を図り、タブレットではデジタルドリルによる個別最適な学びを進めている。今後も、グループ活動やペア活動を取り入れて、話す機会を増やし、主体的・対話的で深い学びができる場を設定しながら学力の向上に努めていく。</p> <p>よんみろ会の定期的な読み聞かせにより、児童が本に親しむ機会が増えてきている。家庭読書についても、長期休業中の「家読（うちどく）」の実施により、少しずつではあるが読書量も増加してきている。また、図書室の移動や新刊の導入、図書委員会や図書館協力員と連携しながらの図書館まつりや読書ビンゴ、福本等により、児童が興味をもって図書室に行こうとする姿が見られた。また、絵本作家の来校などの企画も思い、みんなが楽しめる環境づくりを行っていた。</p> <p>英語専科教員・ALTの先生により、デジタル教材等を活用して、授業の充実を図っている。キャリア教育に関しては、キャリア教育支援センターから地域の方や外部の有識者を活用して、メディアコントロール、自動車、ロケットづくり等の授業を行った。今後も、地域の方々を活用した体験活動などを行っていく。</p>
		2 日々の授業の充実 ・個に応じたきめ細かな指導の徹底（UDを意識） ・主体的・対話的で深い学びの充実のための指導の工夫	学力調査分析全学年100%	(1) 主題研究において、昨年度のテストや実施するテスト後の分析を行う。 (2) 授業の中で、グループ活動（ペア、3人以上）を行いながら、お互いに会話する活動・話を聞く活動を積極的に取り入れる。 (3) タブレットによる個別最適な学びとTV等による視覚化を中心とした授業を展開し、分かりやすい授業を行う。	3.2		
		3 読書の推進と聞く力の育成 ・よんみろ会、学級担任等による読み聞かせ ・家庭読書の推進・読書量の増加 ・図書館協力員との連携	読書量前年比プラス	(1) よんみろ会における月1回金曜日の読み聞かせを行う。 (2) 児童や教職員に欲しい本を選んでもらい、購入して興味関心を高める。 (3) 図書館協力員との連携を図るために、オリエンテーションを行う。また、週に1回は図書室に行く機会をもたせる。	3.8		
		4 地域人材、素材の活用及び一部教科担任制 ・関係機関、英語専科との連携 ・東方地区のキャリア教育、文化財の活用	地域人材、素材の活用	(1) 外国語専科の先生とALTの先生の授業を行い、外国語活動の活性化を図る。 (2) キャリア教育支援センターと連携して、講師を招聘し、多くの体験活動にふれさせる。	3.6		
徳育	心の教育の充実	1 定期的な教育相談の実施と見届け ・ラポートフォーラム・教育相談の充実 ・全職員で行ういじめ・不登校対策の徹底	いじめ・不登校の未然防止100%	(1) 月1回の人権アンケートとラポートフォーラムを実施する。 (2) いじめ・不登校の児童を出さないよう関係機関と連携して、児童や保護者のサポートを行う。 (3) 状況に応じて、気になる児童と担任・スクールカウンセラー等と何回も教育相談を行う。	3.5	3.5	<p>本年度：いじめ1件、不登校傾向2件 校内では、毎月1回人権アンケートとラポートフォーラムを行い、児童の実態や様子を共通理解している。状況に応じて、支援委員会を開催し、支援体制はいつも整っている。外部との支援体制は、市教育委員会、チーフコーディネーター、スクールカウンセラー、スクールサポーター、スクールソーシャルワーカー、通所施設等と連携をとっている。事が起こる前に、必ず相談し、保護者、管理職・担任・生徒指導主事・特別支援コーディネーターとも話をしながら、未然防止を図っている。保護者と学校の共通理解と児童の居場所づくりが大きな課題である。</p> <p>本年度は、全学年において交流清掃・ふれあい交流・運動会や持久走大会等の行事を楽しみに行った。共同学習においては、教職員同士が何回も話し合いを重ねて、児童にとって多く学ぶ機会を作ることができた。普段の生活の中で、児童同士もお互いの良さを知り、優しい心をもって仲良く元気に過ごすことができていく。</p> <p>年4回の避難訓練（風水害・不審者・地震・火事）を実施し、危機意識を高め、回避能力の育成に努めている。また、通学路点検を実施するとともに、年度のはじめや学期等の際に登校班会や集団下校を行い、児童が安全に登校できるように指導してきた。現段階で学校内外での大きな事故や事件は起こっていない。</p> <p>学校生活の中で、授業を中心にあらゆる活動においてやってみる場を設定した。個人差はあるが、自ら挑戦しようとする児童も増えてきている。今後も自己肯定感を向上させるための様々な取組を行う必要がある。またボランティア活動に関しては、自分から進んで行う児童は少ないが、ボランティアの意味や考え方を理解させることで、積極的に取り組む態度を育成していきたい。</p>
		2 特別支援学校との連携によるインクルーシブ教育の推進 ・交流清掃、ふれあい交流、各種行事等 ・共同学習	計画の実施率90%以上	(1) 一緒に取り組むふれあい交流や行事を積極的に行う。 (2) こすもす支援学校の児童と一緒に、同じ目標のもと、違う目的やゴールに向かって共同学習を進める。	3.9		
		3 自他の生命やまきまりを守る指導と危険回避能力の育成 ・避難訓練・登下校・集団下校等、道徳の時間の学び	学校内外での大きな事故や事件0	(1) 火事・地震・不審者・風水害の避難訓練を実際の状況を考えてながら、取り組む。 (2) 登校班会を開催し、各班で危機意識を高める。 (3) 通学路での危険箇所を各地区であげてもらい、点検時に見回る。	3.5		
		4 主体性の育成 ・学校生活での自分で考え、やってみる場の設定 ・ボランティア活動の推進		(1) 自分たちで何でも考えてできるように、教師側があまり指示を出さずに考える時間を設定する。 (2) 朝の時間や清掃時間等をうまく活用して、自分から進んで行えるように環境をととのえていく。	3.1		
体育	体力の向上	1 体力の向上と運動を楽しむ態度の育成 ・体育の授業の充実と運動量の確保 ・昼休み時間の外遊びの奨励 ・三校合同運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進	外遊び定着度80%	(1) 授業において、サーキットトレーニングを十分活用して体力の向上を図る。 (2) 晴れている日は、教職員も一緒になって遊ぶ。 (3) 3校での十分な打ち合わせや話し合いを行い、児童が楽しめる合同運動会を企画運営する。 (4) 持久走月間、なわとび運動月間を設定し、カードに記入させながら、達成感を味わわせる。	3.2	3.3	<p>本校の児童は、昼休みはともて元気に外で遊ぶ児童が多い。特に異学年の児童と仲良く遊ぶ姿が見られた。体育の時間においても教職員が工夫して活動を行わせ、十分な運動量を確保している。合同運動会・持久走大会においても、支援学校と一緒に競技のやり方を考えて実施することで、個人個人のゴールを目指していき、達成感を味わわせることに大変意義があったと感じる。</p> <p>普段の授業や集会等をおして、姿勢の保持と話を聞く態度の定着を図っている。少しずつ長時間姿勢を保持できる児童は増えてきているが、今後も引き続き指導していく必要がある。</p> <p>フツ化物洗口については、ほぼ計画通りに実施できている。保健体育部を中心に啓発を行っている。むし歯治療については、現段階ではむし歯治療率62.1%である。養護教諭の定期的な「保健だより」により、むし歯治療や歯磨き、早寝・早起き・朝ご飯等の推奨・感染症等の予防を行い、家庭にも意識付けを図っている。今後も継続して行っていく。</p>
		2 立腰指導の徹底と話を聞く態度の育成 ・授業開始・終了、集合時 ・時と場に応じた行動	話を聞く態度の育成 立腰100%	(1) 授業の始めと終わりに号令をかけて立腰を行う。 (2) 授業や集会等を通して、話を聞く機会を増やし、聞く態度を育てる。	3.3		
		3 心身の健康と保持増進 ・むし歯治療、フツ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・早寝・早起き・朝ごはん	むし歯治療90%以上 フツ化物洗口100%実施	(1) 養護教諭からの保健だより等を通して、健康への意識と推進を図る。 (2) フツ化物洗口や給食後の歯磨きを丁寧に、確実にに行わせる。 (3) 日々の常時指導において、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを児童に伝える。	3.5		
食育	食育の推進	1 食育週間の実施 ・年3回	食育週間の各家庭での実施80%	(1) お弁当を作る機会を設定し、親と一緒に話す機会や時間をもたせる。 (2) 食に関する指導を行うことで、興味をもたせ、食の大切さを感じ、何でも食べる意識をもたせる。	3.5	3.4	<p>5月に「食育にチャレンジ」、8月に「夏の贈り物in夏休み」を行って、家族でお弁当や料理を作る機会をもたせ、食に関する意識を高めることができた。紙面に写真や言葉でまとめたものを掲示し、食への関心をもたせた。また3月の遠足で弁当を作る「食育にチャレンジ」を行う予定である。</p> <p>生活科や総合的な学習の時間において、地域の方の畑を使ってお手を育て、収穫を行う体験活動、収穫したものを調理する活動等を行っている。また、給食では「給食感謝集会」において調理の様子や作る人の思いを見たり感じたりすることで、食物を大切に食べようとする気持ちや地域への感謝の気持ちを考えることができた。</p> <p>生活科での学校の周り探検、こすもす科での学び、さらには給食感謝集会の実施等により、生産者への感謝の気持ちの育成が行われている。給食についても、生産者の気持ちを考えながらできるだけ残菜が出ないように各学年で食べる努力をしている。</p>
		2 地域への愛着につながる食育指導 ・郷土料理・地産地消を取り入れた給食・調理、体験活動		(1) 手植え・手ほり（2年）において地域の方の協力により、活動が成り立っているということに気付かせる。 (2) 写真を見たり、振り返る活動を通して、感謝の気持ちをもたせ、地域を大切にしようとする心を育てる。 (3) 給食の放送で取り上げることで関心をもたせたり、高学年の家庭科の学習で地産地消について学んだりする。	3.2		
		3 生産者への感謝の気持ちの育成 ・生活科、こすもす科、感謝集会等による指導	残食ゼロ	(1) 保健委員会を中心に「給食感謝集会」を実施し、感謝の心を育成する。 (2) 学校の周り探検（2年）において、近くの施設を訪れ、生産者の気持ちを考える。 (3) 毎日の給食をみんなで残さず食べる努力をする。	3.4		
その他	学信校頼づくり	1 働き方改革の推進 ・ICTを取り入れた業務の効率化 ・フレックスタイム・留守番電話	時間外勤務50時間以内 勤務規律の遵守100%	(1) c4thを活用して、出退勤、通知表、出席簿などの管理、他の学校の教職員との連絡を行う。 保護者への連絡等はLINEメールを使う。 (2) フレックスタイムや留守番電話を活用して、教職員及び保護者の時間に対する感覚を養い、業務の精選と効率化を図る。 (3) 教職員誰もが話しやすく、相談しやすい職員室、働きやすい環境を作り、楽しく仕事ができるようにする。	3.8	3.6	<p>ICTを取り入れることで、業務はかなり効率化されている。朝早く来て、早めに帰るフレックスタイムの導入、並びに留守番電話の導入により、教職員の負担軽減と時間内に精一杯働こうとする考え方の変化が少しずつ出てきた。まだまだ業務内容が多く、時間内に終わらせることは難しい部分もあるが、職務内容を厳選して少しずつ職員全体で時間外勤務をしないように意識して、さらに取り組んでいく必要がある。また、教職員のコンプライアンス意識も高く、職員同士もコミュニケーションを取り合い、全体で働きやすい環境を整えている。</p> <p>生徒指導主事や特別支援コーディネーターを中心に、支援体制を整えている。また、日常生活において児童支援施設、特別支援学校と連携を図るために常に連絡を取り合い、相談しながらあらゆることに対応している。問題が生じた際に対処できるように平日頃から関係者とコミュニケーションを取り合い、共通理解を図ってみんなで取り組んでいる。</p> <p>学校運営協議会、青少年育成市民会議等は中学校と協力しながらほぼ計画通り実施できている。KSSVCキャリア教育センターとも連携し、数多くの活動を行うことができていく。また、PTA役員を中心に地域との行事と一緒に活動に取り組む。</p> <p>本年度より、LINEメールを活用して学校と保護者の連絡体制を整えた。必要な時に、必要なところへ内容を文書や画像・データで送ることができ、職員全体で多く活用し、保護者にも周知することができた。ホームページも各学年での行事等について更新し、学校の様子を伝えることができた。今後も情報を発信していく必要がある。</p>
		2 学校の校内支援体制の確立 ・児童支援施設、特別支援学校、外部機関との連携		(1) 登下校の際、児童クラブや放課後デイサービス、支援施設との連携を図り、児童を安全に過ごさせる。 (2) 特別支援学校や中学校と連携を図るために、3校での教務主任会、体育主任会等役割ごとに話し合う機会をもつ。 (3) 不登校や登校しぶり、校内で起こる事案等について、悩みや相談があるときに、担任と管理職、SCやSSW、教育委員会等と連携して対応する。	3.6		
		3 地域との連携による開かれた学校づくり ・学校運営協議会、青少年育成市民会議、地域の方々との協力して一緒に活動	各活動100%実施	(1) 小学校3回の学校運営協議会を実施し、本校の実態と様子を理解してもらう。 (2) 2回の小中合同学校運営協議会と青少年育成市民会議を合わせて行い、地域の方々が一室に集まる会を開催して、意見交換を行い、さらなる地域の活性化を進めるための一歩とする。	3.4		
		4 情報の発信 ・ホームページやLINEメールの活用	毎月1回以上の発信	(1) 各学年及び全体を通して、月1回以上の活動の記録をホームページにアップする。 (2) 各学年や全体にLINEメールを送ることで、仕事の効率化を図る。	3.7		

①(知育)自ら考え判断し、行動する主体的な態度を養うため、自己決定を行う活動を多く取り入れる。また、話すこと・表現力などの伝える力の育成を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導を行い「できた!」を増やす授業に取り組んでいく。
 ②(徳育)すべての困難さのある児童に寄り添い、温かみのある居場所づくりを推進していくとともに、特別支援学校と連携したインクルーシブな学校運営を推進していく。
 ③(体・食育)メディアコントロールなどを可視化し、家庭でのルール作りを支援するなど家庭と連携した健康・生活習慣の改善に努める。
 ④行事だけでなく日常の学習風景を学校便りや学校ホームページの充実に取り組み、情報発信の充実を図る。